

考えよう！NPOの未来

総会は5月20日、ウィルあいちで。岡部一明さんの講演も

CAPNAの本年度総会は、5月20日午後1時30分から、名古屋市東区上堅杉町のウィルあいちで行います。

CAPNA結成以来6回目、特定非営利法人になって2度目の総会です。NPOの時代と言われる21世紀に、CAPNAが子どもの虐待防止のために、地域社会でどんな役割を果たしていけば良いかを、考える契機にしたいと思っています。

祖父江文宏代表からの挨拶、昨年度決算、本年度事業報告などに続き、恒例の記念講演は、NPOの研究で知られる岡部一明さん（東邦学園大学教授）に「市民社会とNPO」の演題でお話ししていただきます。岡部さんは、ことし3月までサンフランシスコに長く在住。膨大な数の市民団体が、さまざまな社会問題に取り組み、市民社会の支えになっていることを実感し、精力的に取材されてきた方です。ボランティア、NPOのあり方を考えるうえで、いい勉強ができると思います。ぜひお越しください。

総会は、会員は入場無料（一般は1,000円）。お問い合わせは、CAPNA事務局＝052(232)2880＝へどうぞ。

「防げなかった死」大きな反響

昨年末に出版した「防げなかった死—子ども虐待データブック2001」（発行：キャプナ出版、発売：ほんの森出版）が大きな反響を呼んでいます。ちょうど虐待死事件が相次いだこともあって、多くの新聞、テレビで紹介され、問い合わせや購入希望が事務局に殺到しました。これまでの販売部数は、自費出版としては異例の3000部を突破しました。

5年間の虐待死事件を網羅し分析した内容に、行政関係者、マスコミ関係者などからも「頭の下がる労作」「虐待の深刻な実態を初めて理解できた」「せっかんどだけ問題ではないことを痛感した」などの反響を頂いています。

お求めは、CAPNA事務局へどうぞ。本体2000円。委託販売（10冊以上）をお願いできる場合は、1冊1600円でお付けしています。

CAPNAニュースレター17号（隔月刊1号）

2001年4月25日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882

ホームページ <http://www2u.biglobe.ne.jp/~capna/>

CAPNA

キャプナ★ニュースレター

新しい装いのCAPNAニュースレターをお届けします。

これまで年4回発行してきましたが、今号からは隔月（偶数月）に発行していきます。サイズもB5からA4へ。記事だけでなく、各部署からのさまざまなお知らせも挟み込む形式にしました。

次号からは、表紙で“リレー・エッセイ”も始めます。CAPNA会員のあなたにも、突然のご指名があるかも…。

皆様に、CAPNAのことをもっと詳しく知っていただき、より身近な存在になりたいと考えています。

どうぞご愛読ください。

編集長 安藤 明夫

Vol. 17

元気にやさしく、活動広げよう

「CAPNAの未来を語る合宿」40人が熱い議論

CAPNAは会員の皆様の支援に支えられ、順調に成長してきましたが、一人前の組織になっていくためには、まだまだ多くの課題があります。多忙な日常業務に追われ、将来をじっくり考えていく機会もなかなかありません。結成6年目を迎え、これからのCAPNAについてみんなで考えようと、3月31日から一泊二日で、「CAPNAの未来を考える合宿」を瀬戸市の愛知県労働者研修センターで開きました。約40人の参加者たちが現状の課題、今後の方向性、夢などを熱く語り合いました。以下、主な内容を紹介します。

ホットラインの拡充を

CAPNAホットラインは開設以来5000件あまりの相談を受け付けてきましたが、ホットラインの存在を知らない人も多く、虐待防止に十分な効果を挙げているとはいえません。

合宿では相談時間の拡充や、相談体制の強化についてさまざまな意見が出ました。

現在の相談時間は、午前10時から午後4時ですが、この時間帯に電話しにくい人もいます。特に子どもたちからのアクセスは現状ではあまりみられません。スタッフをさらに増やし、夜間の時間帯も相談を行うことが、今後の目標として挙げられました。

このほか「スタッフの談話室が欲しい(ケアもできる場)」、「スーパーバイザーが常駐しているのが理想」「面接カウンセリングもやりたい」「子どもテレフォン(フリーダイヤル)を新設したい」「県内各地に拠点を設け、24時間電話相談に対応できるようにしたい」などの意見がありました。

いずれも運営基盤の安定、事務局の強化が不可欠で、中長期的な目標です。

ネットワークづくり

現在、CAPNA弁護団には62人もの弁護士が所属し、昼も夜も飛び回っています。児童相談所をはじめとする行政機関との連携もかなり進みましたが、まだまだ民間機関が信用されにくい雰囲気があることも事実です。

討議の中では、虐待防止の専門機関として行政機関の対応に厳



活発な議論を繰り広げた「未来を語る合宿」＝瀬戸市の愛知県労働者研修センターで

しく注文をつけていく必要があること。その一方で、一線の職員が疲弊したり、上司とCAPNAの板ばさみになったりすることがないように、いい関係を築いていかなければならないことを確認し合いました。その中で「児童福祉司の相談相手になれるような事業を考えていきたい」「県・市から委託事業を受けるなどの連携ができないか」といった意見も出ました。

また、危機介入だけでなく、保護した子どもの心を癒し、成長を支えていくために「CAPNAが独自の施設を設ける必要がある」という提案もありました。

ボランティア

CAPNAに直接かかわっているボランティアは200人を超えますが、これだけの大所帯になると、互いの交流が難しいうえ、立場、所属によって考え方の違いも出てきやすいものです。

自主的に、責任を持って、やりがいのあるボランティア活動を継続できるように「ボランティア倫理要領」を早急に作るという提案が出て、さっそく作成委員会が誕生しました。また「月1回ぐらい自由におしゃべりできる機会を設ける」「それぞれの役割分担を確認し、固定化しないように配置転換なども定期的に考える」「お互いに認め合える組織にしていこう」「疎外感を与えるような雰囲気を作らないようにする」といった声が出ました。

運営基盤・PR

虐待防止の活動にゴールはありません。より多くの子どもたちを守っていくためには、より力強い組織が必要です。運営基盤が安定しなければ、社会の信用も得られないものです。

私たちは今年1月に、栄誉ある朝日社会福祉賞をいただいたばかり。これを契機に、私たちの活動を広くアピールし、さまざまな方々に支援していただけるようにしていかなければなりません。

法人会員(年会費2万円以上)も新設し、担当者を決めて入会や寄付のお願いをしていくことを話し合いました。そのためのパンフレットづくりも進めています。

また、CAPNAを応援してくださる方を増やしていくには、広報活動がきわめて重要です。マスメディアに頼るのではなく、私たち一人ひとりが身近な人たちと虐待問題について語り合っていくことを徹底する必要があります。

討議の中では「CAPNAの財産とすべき情報と、自由に外で話していいことを確認する。メンバー一人ひとりがCAPNAについて語れるようにする。正確なデータを積み上げ、社会に情報発信していく」という意見が出ました。

もっと広い事務所を

CAPNAの活動量が増えるにつれ、事務所が手狭になってきました。財政的にも簡単に引越はできませんが、当面は第二事務所の確保も考える必要が出てきました。

合宿で多くの喝采を浴びたのは「3階建てのCAPNAビルがほしい。ケアセンター、図書館も設けたい」という壮大な夢。

現時点では夢物語ですが、確かに子どもの虐待防止を真剣に考えていけば、自前のメンタルクリニック、シェルター、マザーチャイルドセンターなども長期目標として視野に入れておく必要があるでしょう。

活動を充実させていくには、拠点が重要です。拠点を拡充するためには、やはり財源が必要です。理事だけでなく、CAPNAにかかわる一人ひとりが、いかに真剣に未来を考え、協力してやっつけていけるかがかぎでしょう。